|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **小国郷医療福祉あんしんネットワーク 会議録** | | | | | |
| **会議名** | **小国郷医療福祉あんしんネットワーク全体会** | | | | |
| **開催日時** | 令和2年12月2日(水) | | 19:０0～20：30 | **開催場所** | 小国町社会福祉協議会会議室  南小国町自然休養村管理センター  Web参加（zoom） |
| **記録者** | ファーコス薬局ゆう　佐藤亮太 | | | | |
| **議題** | 1. | ZOOMフォーラム開催について（佐藤代表、片岡先生） | | | |
| 2. | ①オグシスを使ったモデル事例の紹介（おぐに薬局　玉飼先生）  ②小国公立病院から見えてきたもの（片岡先生） | | | |
| 3. | オグシスの説明（情報共有チーム、片岡先生、佐藤SW） | | | |
| 4. | その他 | | | |
| **出 席 者** | 個人名省略　計47名 | | | | |

| Ｎo | 議　　題 | 内　　　　　容 |
| --- | --- | --- |
| 1. | ZOOMフォーラム開催について | ・今年度の住民フォーラムの開催について  　昨年度は劇をやって大反響であったが、今年度は集合での住民フォーラムは難しい状況にある。そのため、オンラインでの住民フォーラムを開催できないかという提案があった。  ・あんしんネットワーク2.0へ  　開疎化してゾーン分けしてテクノロジーでつないでいく。  　小国は強固なコミュニティが既に構築されているが、デジタル化は遅れている。そこでこのデジタル化を強力に導入していくことが必要。  　その流れでフォーラムのテーマとして、全世代型ケア・多様性・SDGｓ・地方デジタル化を盛り込んでいる。世話人会で子育てというテーマを盛り込んでみてはどうかという話も上がった。今はまだアイディアを出している段階。  ・住民フォーラムの内容について  フォーラムの基調講演として、甲佐町の谷田病院事務部長の藤井将志さんにオファーしている。まちづくりと医療構築の分野においてホットな方。  講演後、オンラインシンポジウムを計画しているが、オンラインであるので今までのような高齢者よりも、もっと若年層を中心として組み立てている。その共催として小国町100人会議と南小国SMOに声をかけている。  議員の江藤理一郎さんに話をして100人会議事務局に話を持ち掛けている。小国町は持続可能性・サステナビリティについては進んでいると思われるので、持続可能なまちづくり・医療介護業界について一緒に考えていく。  SMOは南小国の行政が運営している株式会社に当たる。都会から移住してきた方の洗練されたデザインを取り入れながら街づくりを行っている。こちらにも連絡しており、快諾を頂いている。  多様性をどう取り込むかが今後大事になっていく。小国郷の大事なまちの芯をぶらさずに、どのように取りこんでいくかが大事。疾病や加齢による体の変化も多様性の範囲に含め、それを医療・介護だけでなく町としてどのように取りこんでいくかを若い人達と話し合っていきたい。 |
| 2. | ・OGCISについて。  小国公立病院から見えてきたもの（片岡先生）  オグシスを使ったモデル事例の紹介（おぐに薬局　玉飼先生） | 患者情報共有シートは非常に有効に機能しているが、これをICT化しようという流れで小国郷メディカルケア情報システム（OGCIS）が生まれた。  このOGCISを有効に活用するには単一のシステムの利用だけでは不十分であり、そのため、熊本メディカルネットワーク（KMN）とメディカルケアステーション（MCS）の良いとこどりをしている。  KMNとMCSの比較   |  |  |  | | --- | --- | --- | |  | **くまもとﾒﾃﾞｨｶﾙﾈｯﾄﾜｰｸ** | **ﾒﾃﾞｨｶﾙｹｱｽﾃｰｼｮﾝ** | | **システム要件** | Windowsのみ | Webブラウザを備えたすべての媒体 | | **利用登録** | 施設の登録要（書面登録） | 個人アカウント要（ネット上） | | **システムコスト** | 一施設　6000円/年 | 無料 | | **セキュリティ** | とても高い（個人カード必要） | 高い（三省ガイドライン準拠） | | **ログイン時間** | 1分20秒 | 1秒 | | **施設外での使用** | 不可（VPNサーバ要） | 可（ブラウザでアクセス可） | | **利用者登録** | 同意書FAX（5～6日で登録） | ネット上登録（即時使用可） | | **トピックス** | 分けられる | 分けられない | | **写真** | PCにダウンロード後閲覧 | ブラウザ上でサムネイル | | **写真・ﾋﾞﾃﾞｵのｱｯﾌﾟﾛｰﾄﾞ** | PCよりファイル指定 | 携帯やタブレットから直接撮影可 | | **電子カルテとの親和性** | 電子カルテと同じPC（コピペ可） | 電子カルテと共存するにはコスト高 | | **情報共有の範囲** | 施設ごとの指定 | スタッフ毎の指定 | | **実績** | 熊本の一部　介護連携は少 | 約200の全国医師会、28000施設、4県で全域の医師会 |   KMN   1. セキュリティ強固 2. 検査・画像・カルテデータ共有   →基幹病院との医療情報共有・病院データ＋行政（健診）データの共有  MCS   1. 小回りの利くシステム 2. コミュニケーションツール   →小国郷内の医療/介護連携・在宅医療での情報共有  　この二つをハイブリッド的に利用することで、OGCISとして利用している。  　システム構築費用はQRラベル印刷機とQRコードリーダーで約35000円。それに工夫と人力を駆使して実現している。小国郷という限られた人口であるからこそ実現できた「小国らしいシステム」。  　OGCISは患者情報共有シートの隙間を埋めるシステムと言うことも出来る。今まで以上に共有を進めることが出来る。  　KMNでは来年度以降、病院データと行政データを同時に見ることが出来るようになり、余計な検査をしなくてよくなるメリットがある。  　MCSを利用すると、病院のカルテと薬局のカルテなどを写真に撮ってアップロードすることで相互にカルテを確認することが出来るようになる。また、在宅医療での情報共有も推進することが出来、患者情報共有シートのネット上での共有や、看取りの際における死亡診断書の情報共有なども出来る。  　もちろん誰でも情報を見ることが出来るわけではなく、主となっている人から招待を受けた特定の人物のみ見ることが出来るように、制限をかけられる。  　薬局から見たOGCISの活用法について。（玉飼先生）  　高齢化の進展により、本人からの聞き取り・家族や代理人からの聞き取りがうまくいかなくなってきている。薬局としては、処方内容に疑義が生じると医師に確認し疑義を解決してからでないと調剤が出来ない。また、処方内容の不備（不足薬など）の解消も必要になる。これが、OGCISの利用により病院のカルテ情報の閲覧が出来るようになることで劇的な改善が期待される。また逆に薬歴簿（薬局におけるカルテ）を他の職種が見ることが出来るようになり、それぞれの職域における業務改善が図れる。  　外来診療での活用事例。片岡先生との連携で、同意を得ている患者さん19名で活用を行っている。また、在宅患者の訪問時に、聞き取れることの出来た情報をMCS経由で報告している。またケアシートの確認や検査データの確認も出来ている。  　在宅医療での活用事例。デイケア施設、ケアマネさんとの情報共有、連携にも使っている。  　医師の業務改善、負担軽減策としても利用できる。  　患者さんの自宅訪問時に薬の余り（残薬）を見つけたときは是非かかりつけの薬局まで連絡をお願いします。  　また、定期での服薬量が6種類以上を超えるポリファーマシーという状態に陥ると、日常での転倒や意識障害、低血糖、肝機能障害などの有害事象を起こしやすくなる。こういったことを防ぐために情報共有が必要になる。  　OGCISは広まれば広まるほどメリットを高めてデメリットを軽減できるシステムであると考えていますので、より活用の輪を広げていきましょう。  　病院医師として診療中のOGCISを使って調剤薬局と情報共有してみた感想（片岡先生）  　午前中30～45名程度の外来患者診療中に、OGCISにアクセスし電子カルテの写真を撮るのは、努力すればぎりぎり可能（やや負担にはなるがそれ以上にメリットを感じるので継続可能）と考えている。  　病院と調剤薬局でお互いのカルテを見ることが出来るのはかなりのメリットがある。同じ患者さんを違った立ち位置から見て情報共有すると、医療・ケアの質の向上が期待できる。  　減薬に関するアドバイスをもらうと、ポリファーマシー改善のきっかけになる。  　病院と薬局で話がかみ合わないことはよくある。情報共有でそれが防げる。  　患者さんから聞いたことを、必要な専門職に伝達することが出来る。  　病院と調剤薬局だけでも大きなメリットを感じることが出来るので、多職種で同様の情報共有が出来ると更に大きなメリットがあるのではないかと考えている。  　在宅医療サポートセンターとしてのMCS利用について。  　在宅での情報を訪問看護ステーションと共有できるし、在宅見取りにおける死亡診断書の記載内容の共有を即時性をもって行うことが出来る。  　施設職員との連携でも活用できた。見取りの場面でもMCSは有用。 |
| 3. | オグシスの説明（情報共有チーム、片岡先生、佐藤SW） | 1. 施設同意書   小国郷メディカル・ケア情報システム利用申込書（同意書及び誓約書）の提出が必要になる。  提出先：OGCIS事務局（小国公立病院　地域連携室）  提出期限：12/18（金）（第一次の期限として設定。後述の端末貸与に関係する）  MCSを利用するにあたりスタッフ間の使いまわしが出来ないため、個人のメールアドレスとパスワードを用意してください。   1. 利用者の登録方法      1. 情報共有（患者グループの作成）の依頼方法 2. OGUCIS事務局へ患者グループ作成の依頼（MCS、電話などで） 3. OGCIS事務局が患者グループに関係者を招待する。   ※関係者がMCSに登録していない場合は、その関係者のメールアドレスが必要になる。   1. 規約と運用ポリシーと留意事項   OGCISを利用するにあたり、利用規約・運用ポリシー・留意事項あり。  最終決定は、今後立ち上げる予定の連絡協議会で承認を得る。   1. 事務局の機能   OGCIS運営の実務を担う。  OGCIS事務局は、あんしんネットワーク及び小国郷在宅医療サポートセンターに置く（主に小国公立病院　地域連携室）。   1. 連絡協議会   OGCISの決定、承認機関。1月には立ち上げる予定。  →利用規約、運用ポリシー、留意事項の決定  小国郷メディカル・ケア情報システム利用申込書（同意書及び誓約書）の提出をした事業所で構成。  年1～2回で協議会を実施予定。   1. 運営委員会   OGCISの実施・推進に係る運営機関。OGCISを利用する上での困ったことや良かった点の共有を期待する。  ２～３か月に1回程度の実施予定。  　OGCISは、あんしんネットワークでお互いの顔が見える関係だからこそ使えるツールだと考えています。ぜひ参加同意を頂いて、より使いやすいツールに育てていきたいと考えています。  　●補足  　行政レベルのセキュリティが必要になるため、行政や社協など様々な方に協力いただき利用規約と運用ポリシーを定め、それに同意・承諾を頂けることを参加の条件にしている。  　現在、参加事業所は7施設、14事業所。  　1月に立ち上げる予定の連絡協議会で運用ポリシーを承認していただいて、それから運用を決めていこうと提案している。  　なぜ期限を切って同意申し込みを行ったか。IPADを運営で用意しているので、期限までに提出していただいた12程度の事業所には貸与することが出来る。  　●質問  Q.個人・事業所の責任の下で、MCSをそれぞれの端末で利用することはできるか？  A.運営側としておすすめはしていないが、それぞれの責任の下で利用することは規約上禁止していない。  Q.OGCISのMCSの利用に際して、事務局の方に来ていただくなどサポートしてもらうことは可能か？  A.事務局の可能な範囲でお手伝いしていきたいと考えている。要相談。 |
| 4. | その他 | OGCISのホームページについて。  　今のところ、あんしんネットワークホームページの一角に概要はある。具体的な内容については今後作成予定。  　要望として、利用者さんでもわかりやすいような画像などを活用したページを期待している。 |